

石狩・彭州姉妹都市提携15周年

記念式典・祝賀会(石狩市受入)

実行委員会事務局大慌て 10月8日(木)

記念式典・祝賀会の準備を進めてきた実行委員会事務局では、天気予報の情報を気にしていた。超大型台風23号が九州から北海道に向かって北上しており、相次いで航空機欠航の情報が届いてきたからである。

15周年を祝うための彭州市訪問団の出迎えに、午後1時教育関連訪問団、夕方8時行政・経済訪問団の予定であったが、やはり欠航となった。8日の計画はすべてキャンセル。明日無事の到着を祈るのみ。

無事到着 10月9日(金)

出発時刻の情報が入ってきた。台風は温帯低気圧に変わり千歳には1便は午前10時到着、2便は11時到着とのこと。事務局では早速スケジュール内容を変更し、関係者に連絡。白井副市長を先頭に千歳空港に出迎えに。1便が無事到着との連絡あり。そのまま次の便が到着するまで空港で待機し、2便の到着を待つてもらった。2便も到着。2便には子どもたちが乗ってきている。皆元気で笑顔で降りてきたとのこと。関係者一同まずは一安心。一路、宿泊のホテルガトーキングダムに向かった。

短時間の中の記念式典

午後2時30分、一旦正装のために寄ったホテルから記念式典に参加のため市役所庁舎に向かった一行は、市幹部が待つ議員会室において表敬訪問を行った。その後、午後4時から石狩市庁舎議場で記念式典に参加。式典では、田岡市長から「いよいよ大河へ漕ぎ出るとき時期に来た」と挨拶。彭州市副市長からは、「友好の絆をさらに強固なものにしていく」と挨拶された。



祝賀会

姉妹都市15周年おめでとう！姉妹都市提携を祝う記念式典が花川北コミセンで6時から開催。祝賀会は琴「さくら」と日本舞踊「長唄藤娘」による歓迎セレモニーで迎え入れ、星実行委員長の挨拶で始まった。来賓は中国総領事も出席。会場内は日本のお祭りをイメージして綿菓子、ヨーヨーすくい、お茶席、屋台寿司がセットされ、彭州の皆さんに大いに楽しんでいただいた。子どもも神輿、餅つきには彭州の子どもたちも一緒に参加。舞台では日本舞踊、彭州市からは子どもたちによる四川千劇やラテンドダンスなど双方の出し物で会場内は大いに盛り上がり、会場内は始終笑顔が満杯。祝賀会の締めくくりは石狩流星会による「石狩大漁節」、「サケサンバ」で一緒に踊り会場内の雰囲気が高潮に。アンコールの掛け声が会場内に響き、もう一度サケサンバ、舞台では沢山の人が、総領事も一緒に踊り楽しんでいってもらった。会場内の雰囲気が両市の強いつながりを表している一幕でありました。凝縮した内容が一杯詰まった1日となりました。

お別れ

訪問団一行は10日早朝離道し東京に、11日は大阪、12日は友好都市富田林市を訪問し、14日まで滞在し帰国した。

パネル展&書道展

▼15周年の節目を記念して、パネル展&書道展を開催した。

パネル展【10月6日(火)〜10月16日】では、両市の概要、それぞれのイベント情報、景勝地、市花、工業団地の紹介などのほか、姉妹都市提携のきっかけとなった農業研修生の受入スタート時(1984年)から姉妹都市提携調印、留学生の受入など、これまでのあゆみを年度毎に内容文と写真をパネルにして市民に15周年のPRを図った。

【書道展10月7日〜9日 書道実演は8日】彭州市から書家4名が書道交流を目的として来訪した。彭州市からの訪問団一行は24人で、書道家4名の市民訪問団が先行して10月7日(水)に石狩入りした。

書道交流は、先に7月に訪問した際に提案のあった文化交流促進の一環で実現したのもので、石狩市書道協会会長の書道家浅野良子(雅号玉城)さんから協会役員のみなさんの協力で実施された。会場は、市民図書館で実施され、彭州市書道協会会長が「今日をスタートに、書道を通じた民間交流を長く続けたい」と挨拶。なめらかな筆使いで、次々と作品を書き上げた。石狩からは、書道家浅野さんと田岡市長が筆を握り、和歌や短歌の書を披露した。

言葉は通じなくても、書によるお互いの友情はより一層深いものとなった。新たな交流が始まってくることを期待しています。



姉妹都市提携15周年記念事業

中国・彭州(ほうしゅう)訪問 事務局長 藤田 隆
 ▼彭州市で実施する姉妹都市提携15周年記念式典に、白井副市長を団長に、当星国際交流協会会長、三津橋商工会議所会頭、市民訪問団など一行14名が彭州市を訪問した。

昨年7月12日(日)千歳空港から北京空港を経由し一路成都空港へ、時差は日本より1時間前。空港には張明副市長、王永松主任の出迎え。再会の固い握手ののち、今夜の宿泊先成都市内の緑洲大酒店に向かった。

7月13日パンダ繁殖研究基地、博物館、成都市企画館を観察。夕方から成都市主催による歓迎会に出席後、彭州市に向け移動した。宿泊ホテルは真新しい建物。外国との合弁により最近できたらしい。室内からはちょうど真正面に市の庁舎が見える部屋であった。

14日(火)、副市長、主任の出迎えのバスにて市庁舎へ。庁舎では多くの職員の出迎えの拍手、盛大な歓迎を受け、彭州市共産党書記を始めとする幹部が待つ会議室に表敬訪問。書記から子の「朋あり遠方より来たる、また楽しからずや」の一説を引用した歓迎の挨拶。白井副市長からは、田岡市長が急遽訪問できなくなったお詫びと、両市の姉妹友好関係の更なる発展と15周年記念事業の成功をお祝いする挨拶が行なわれた。



その後、白鹿鎮フランス風村落視察、領報修院協会遺跡、地震跡地の視察。昼食後、石狩市との提携でできたパークゴルフ場施設を視察した。彭州市内は生き馬の目を抜くほどに大規模な工場群、石油コンビナートの建設、人々の躍動感、車、クルマ、人、ひと、新たなビルが所狭しと建設されており、彭州市のものすごいエネルギーが伝わってきた。ホテルで一時休憩後、市庁舎イベントホールにおいて記念式典が行われた。庁舎内にこれほど大きな会場があるとは、とても大きな会場で、中央にはお祝い花、ポインセチアなど数種の花々が飾られ、中央には真紅の大歓迎幕、お祝を盛り上げるための趣向が随所に見られた。大歓迎である。

会場では、来賓の紹介、彭州市幹部の紹介、石狩市訪問団一行の紹介後、彭州市の「ミニドキュメンタリー映像美しい彭州」の鑑賞後、両市の挨拶、記念品の交換、記念撮影が行われた。彭州市から一つは農産品の輸出入と農業技術の研修の拡大。二つ目は、観光を活かした文化交流。三つ目は青少年の継続強化の三つの提案があり、双方で協議したのち、石狩訪問時において調印することを確認し合った。

午後6時から歓迎レセプションが始まった。



本場の四川料理を味わいながら、アルコール度数五三度の「五糧液」で乾杯。一口サイズのグラスとはいえ、彼らに合わせ一気に飲み干すと喉は火が付いたような感じ。あとは次から次へと乾杯の嵐。ついその場の勢いに任せると2、3日はダウン危ない。和気あいあいの中でレセプションが終了した。

15日(水)副市長一行の案内により、ユネスコ世界遺産である都江堰水利施設の見学。都江堰市から国際交流の担当職員が案内役として同行された。この施設は、成都平原一帯の灌漑用水を取り入れる施設として、約2300年ほど前に、秦国蜀郡の太守親子2人が民衆を集め、水利工事を行って作られたなど詳しく歴史を付して説明いただいた。

石狩の記録フィルム「砂と闘う」石狩川治水事業が頭に浮かんだ。

午後、いよいよ四川省を離れる時刻となった。成都空港で彭州市の指導者の方々が訪問団一人一人と再会を約束し握手を交わした。午後6時成都空港を飛び立った。

彭州市の皆さんの強烈的な歓迎ぶり、まちの発展にかける熱意、そして中国のバイタリティを強く感じました訪問でした。 謝辞。 再見。